

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム敬愛苑 Aユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1番の特徴はビルの4階にあります。グループホーム入口に入る前に広い苑庭を通ります。ユニット内や居室内での狭い空間だけの生活ではなく開放的な空間で運動会や演奏会、グランドゴルフなどを楽しんで頂けます。また春と秋の外出(夕食)行事も利用者全員の方に参加してもらえるよう、1人ひとりに合った計画を立てお出かけしてもらっていて、利用者職員、職員同士が明るく笑顔で挨拶を交わしながらお互いに支えあえる関係を目指して日々努力して行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の人の避難所や、苑内にある会議室やコミュニティルームをサークルや会合等活動の場に提供し、新たなボランティアとの交流も広がっている。職員は経営信条や理念に基づいて「人と人、心の和を大切に」を心がけ、仕事の始まりと終わりに両ユニットの利用者職員と挨拶を交わし日々笑顔で過ごすことに努めている。家事仕事や趣味、外出等個別に支援し、馴染みの生活が継続して出来るように取り組んでいる。重度の利用者が増え、電動ベッドや歩行器、車椅子用体重計等購入し利用者が安楽に暮らせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「人と人、心の和を大切に」は会社の経営信条の中の一つであり、昨年より毎朝唱和することで日々意識しながら利用者の思いに繋げるよう取り組んでいる。新人職員には入社時に説明をしている。	朝礼時に理念を唱和し、日々利用者と職員が笑顔で過ごせるように挨拶を交わし理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には出来る限り参加している。また複数の公民館からボランティアで来訪されたり、苑内施設を地域の方に利用して頂くことで、地域の方と常に交流を持っている。防災時は一時避難場所にも利用されている。	近所を散歩したり地域の祭り等催しに参加している。苑内の施設を地区内外のサークルや会合で利用して貰い新たなボランティアとの交流も増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会や研修会等で貸し出したり、公民館のボランティア活動の練習などで来苑されることで利用者との交流があり、活動を見て頂くこともある。また近隣からの利用者もおられ、面会等でも深く関わりを持って頂いている。今年もまちゼミに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況や活動内容、事故の報告とその後の取り組み等を報告し、質問に答えたり、意見交換をしている。また昨年度よりデイサービスが地域密着型になったため、年2回は合同で会議を開催している。	利用者の状況や取り組みを伝え、意見や要望を運営に反映させている。委員からの要望で開催時間を変更し出席の人が増えた。欠席した委員や家族に会議報告を送り事業所の状況を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは密ではないが利用者様の入居時の相談をしたり、問題や制度についての疑問などの解決には日々対応してもらっている。会議への出席は毎月ではないがある。	主に運営推進会議で実情や取り組みを伝え関係を築いている。利用者の状況の変化や問題、制度について書類を提出し相談したり助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で拘束をしないという姿勢でケアに取り組んでいて、昨年度より内部研修等を多くして知識上の個人差をなくし、理解が深まるよう取り組んでいる。	内部研修や外部研修に参加して各ユニット会議で伝達し、全職員が共通理解して取り組めるように努めている。転倒のリスクのある人は家族に状況を伝え柵やセンサー使用の承諾を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体虐待や暴言、無視など職員が気付いていない不適切な行為についてはその都度対応するようにしていて、職員同士、相手の立場にたって考えることができるようお互い注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方や、これから利用を検討されている利用者もおられて担当者との連携の中で学んでいる。また内外の研修には出来るだけ参加をして理解を深めていきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には退居についても説明をしている。またケアに対する考え方や取り組みなど、対応可能な範囲について説明し、同意を得ている。改正時は文書にて説明をして同意をもらっている。料金については入居検討時から説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来苑時には必ず利用者の状況を説明して声がけしやすい関係作りや意見、思いを伝えて頂きやすいように努めている。出して頂いた意見や思いはミーティング等で話し合い反映させている。	面会時に日頃の様子を伝えたり、時には面会した家族と一緒に鍋料理を囲み話を聞くことに努めている。家族の意見が聞けるように行事や運営推進会議への参加を呼びかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とは話しやすい関係作りに努めていて、毎月のユニット会議などでは意見が言いやすい関係作りをしている。常に説得ではなく話し合い、納得できる雰囲気作りをしているがそれで充分だとは思っていない。	日頃から話しやすい関係づくりに努めている。業務改善や福祉用具の導入等の意見や提案を全職員で話し合い出来ることから改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に現場の状況は把握できる場所において、現場にも出ながら職員個々の努力や実績は把握できるようにしている。休憩時間や場所の確保、有休の消化等にも配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には出来るだけたくさんの職員が参加できるよう勤務調整を行っている。研修後は会議の場で発表してもらい、実践に繋げている。資格取得のための勤務調整も協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の会議や研修には必ず出席して交流できるようにしている。また他グループホームからの研修生の受け入れ等も積極的に行い、業務の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に本人の思い、要望、生活習慣を伺い、気持ちに寄り添い、話しやすい関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談で思い、要望を伺い、気持ちに寄り添い、協力し合える関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を見極め、一番必要とされているサービスの提案をする。場合によっては他の事業所を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちに寄り添い、本人の意欲、能力が充分引き出せるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子等をお便りや面会時にお伝えし、家族の要望を伺い、利用者のケアに反映出来るような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時には一緒に団らんの時間を持って頂いたり、散歩で馴染みの場所を訪れ、本人の大切な人、場所とつながりを持ち続けられるよう支援している。	日頃から昔の生活を話題にして利用者の思いを大事にした支援に努めている。近所の人や知人の面会時にはゆっくりと過ごせるように対応している。外泊をしたり家族と入居前からのカラオケ教室に行く人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立されることなく、職員が間に入り話をつないだり、席替えを行ったりして交流して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、家族や転居した施設などから相談等があれば応じる態勢をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日々の様子や会話などから、本人の思いや希望などを理解し、次のサービスに繋げている。	生活歴や日々の会話や表情から出来ることややりたいことの把握に努め、一人ひとりの望む暮らしに繋げている。趣味のゴルフや卓球が出来るように環境を工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に自宅や施設に赴き、これまでの暮らし方や生活環境、生活歴などについて、本人や家族、ケアマネ等と面談し、情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況は日によって大きく変わることもあれば、徐々に変わっていることもある。スタッフそれぞれが注意深く観察し、報告や相談をし合い(情報の共有)、現状の把握や問題解決をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思い、また日常の様子や健康状態などを見ながら、スタッフでケアの在り方を話し合い、家族の意見も聞きながら介護計画を作成している。	利用者、家族、関係者と話し合い、思いや実情に合った介護計画を作成している。身体状況に合わせモニタリングを行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時々様子や心身の状態、ケアの実践やその結果などを個人記録に記録している。そうした中で得た情報はスタッフ間で伝達し、検討事項はユニット会議で話し合い、より良いケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居生活が楽しく、変化に富んだものになるよう、毎月その季節に合った行事を計画したり、外部からのボランティアの受け入れを行っている。また家族とのつながりを持って頂くように面会や外出(外泊)なども行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市職員、民生委員、中央包括の職員等に参加して頂き、情報交換、協力関係を築くようにしている。またボランティアの方に来て頂き、日々の暮らしに楽しみができるよう協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望される病院、かかりつけ医に受診、往診して頂いている。また家族の要望があれば同行、付き添い、普段の様子、情報等を伝えるようにしている。	利用者、家族と話し合い希望する医師の訪問診療や受診が出来るように日頃の様子や情報を伝え支援している。協力医にはいつでも相談が出来、終末期の相談や協力も得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日々の体調管理、状態変化に応じた支援を行っている。看護職員と連携し取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報提供を医療機関にしている。入院時は訪問し、本人、家族、医療関係者と情報を共有し、本人が安心して治療ができるように支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り、重度化や終末期の対応については、入所時に本人、家族に説明し納得して頂いている。その際、主治医と十分に話し合い、相談しながら支援に取り組んでいる。また看取りについても取り組みを始めている。	入居時、利用者や家族に事業所の方針を伝えている。今年度家族の希望で協力医と話し合い事業所で出来る対応方法で看取りに取り組んでいる。ユニット間で情報の共有を行い協力体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにしている。年1回AED等の講習会を苑内で行い、日々実践できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、避難経路の確認、消火器の使用方法等の確認を定期的に行っている。	年2回消防署立ち合いでの火災訓練や消火、避難訓練を実施している。両ユニットの職員の夜間の役割も周知を図っている。近所の火災で困った人に避難場所として場の提供もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格や生活歴を尊重し、一人ひとりの気持ちに応じた声かけをしている。事情や状況に気遣いながら、利用者が穏やかに言動出来るよう支援している。	生活習慣や出来ることやしたいことを尊重し、利用者のペースに合わせて対応している。入浴等無理強いせずタイミングを見て柔軟に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で思いや希望を安心して表現し、判断できるような雰囲気を保っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や状況に配慮しながら本人の意思や希望に添えるようお手伝いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、外出や行事等の時は本人と相談しながら衣類を考えたり、女性の方は口紅を塗ったりし、華やかな雰囲気になるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物、食べたい物を聞いたりし、希望に添った食事作りができるように努力し、また季節の食材を取り入れ、利用者と一緒に会話しながら準備し、片付けも出来るところまで一緒に行える支援をしている。	味噌汁を作ったり片づけ等、利用者の出来ることを活かしながら一緒にしている。おやつ作りや鍋料理を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量のチェックを行い、各々の健康状態、体調を把握し、その人に合った支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後傍で声かけをし、本人の出来る所まで頑張ってもらい、義歯も自分で出来る所までして頂き、仕上げを介助する支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導を行い、トイレの排泄を促している。 利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促している。	利用者のその日の状態や排泄の間隔に合わせて日中はトイレで排泄が出来るように支援している。支援が困難な場合も検討しながらトイレ誘導を行い状況の改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を使用し、散歩をしたり、トイレ内での腹部マッサージを行ったり、利用者に合わせて下剤の使用を行う。毎朝、牛乳を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に一度の入浴を心掛けている。 (入浴表を元に)入浴を拒否される方にはタイミングを見計らって何度か声かけをしている。	状態に合わせて入浴の支援をし、無理強いせず声掛けを工夫したりタイミングを見て清拭や足浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調、習慣に合わせて午睡して頂いたり、散歩をしたり、体操をしたりしている。 不眠気味の方には眠剤を服用して頂き、睡眠状態を把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成し、複数の職員と誤薬のないよう必ず一包毎確認し合う。状態については職員同士で確認し合うが、状態変化時はすぐに看護師、主治医と連絡をとり、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方に適したお手伝い(お膳拭き、洗濯物干し、たたみ、シール貼り、野菜の皮むき)をして頂いており、職員も大変助かり、常にお礼の言葉をかけている。また季節のお菓子作りなども計画し楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事に添って、車椅子、歩行安定の方は散歩に出かけたり、季節の花見に出雲の方まで足を延ばし、食事をしたりして楽しんで頂いている。	天気に合わせて近所の散歩や墓参り、地域の名所にドライブする等個別支援をしている。家族の協力を得て外食に行く人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望時、外出時には預かっている小遣いから出し、コンビニまで一緒に買い物するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話希望があれば時間帯などを考慮し、自分で話をして頂く。 手紙のやり取りをしている利用者は今はおられず以前はおられたので一緒に投函をする支援をしていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに外出した写真、作品等を居室、共用スペースに飾り、生活感を出すようにする。 入浴場、トイレ、台所は使用後共有スペースは夜中清掃、消毒をしている。	書や手づくりのカレンダー、季節に応じた飾り付けをしている。ソファを所々に設置し寛げる場所の工夫をしている。各ユニットの畳スペースで洗濯物を畳む人や昼寝をしている人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑庭にベンチやソファを置き、足踏みマシンやダンス等を置き、緑豊かな観葉植物も植え、散歩されたり、気の合う人とお話し出来る居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたダンス、椅子等を持ち込んで頂き、居心地の良い場所、空間になるよう配慮している。	家族と話し合い筆筒、椅子を置いたり、写真、作品等を飾り心地よく過ごせるように工夫をしている。カラオケの好きな人はラジカセで音楽を聞いたり、畳を持参し家族とゆっくり過ごす人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、お膳拭きをしたりと一人ひとり出来ることをして頂いている。		